



はじめに

岐阜県山口市は平成20年12月、学校の要請に応じて地域住民が支援する、学校支援地域本部事業を導入することとしました。「学校と地域住民が連携・協働（コラボレート）することにより、学校教育の充実、地域の教育力の再生、新たな学びが生まれる」と考えています。そこには、子どもたちの笑顔があふれるものと期待しています。

本市は、平成15年3町村が合併し、人口3万人あまり、岐阜市の北部に隣接し清流長良川の支流に育まれた地域です。学校は中学校が3校、小学校が11校（22年4月には学校統合により9校）あります。

そこで、各中学校区単位に小学校を含めた地域本部を設けます。そしてそれを統括する組織として、「山口市学校支援地域本部実行委員会（実行委員会）」を立ち上げました。中学校区単

学校と地域のコラボが新たな学びを生む 子どもたちの笑顔を求めて

岐阜県山口市学校支援地域本部実行委員会

位の地域本部には、「地域コーディネーター」を各1名あて、学校の要請を受けた学校や地域のニーズを把握したりして、学校へ地域住民を派遣するなど学校と地域の連絡・調整にあたります。また、各学校には、学校支援の円滑な運営が図れるよう助言や評価にあたる「地域教育協議会」を設置します。

学校に入って、さまざまなボランティア活動を地域住民は、本市においては、「学校コラボレーター（学校コラボ）」と称しています。本事業が学校と地域住民が互いに連携し、互いの協働によって、学校教育の一層の充実を図り、同時に、地域住民・地域社会の教育力の再生を図りたいという強い願いから、「学校コラボ」と呼んでいるのです。

組織化への工夫

事業の導入には、既存の組織を改編し、できるだけ簡便にしかも早急に実

施できるよう工夫しました。

まず第1は、事業の企画立案・推進を強力に進めるため、既存の組織である山口市生涯学習リーダーバンク役員と、新しく選任する「地域コーディネーター」と、生涯学習課担当職員を核とし、小・中学校長会代表、保護者（PTA）代表を構成員として、「実行委員会」を組織しました。とりわけ、生涯学習リーダーバンクは、5年前から募集されており、文化系の人は、土・日曜日の児童の地域での有意義な過ごし方の一助として、「やまがた子ども文化クラブ」を展開しています。また、体育系の人は、総合型地域スポーツクラブや、部活動のコーチとして指導にあたっています。

第2は、小・中学校とも、今日まで各々の学校の実情に合わせて、地域のボランティアの人々を、「ゲストティーチャー」とか「地域の先生」などと称して、総合的な学習の時間や読み聞かせなどに活用しています。実行委員

岐阜県山口市学校コラボレーター実施状況

平成21年度
4月～7月

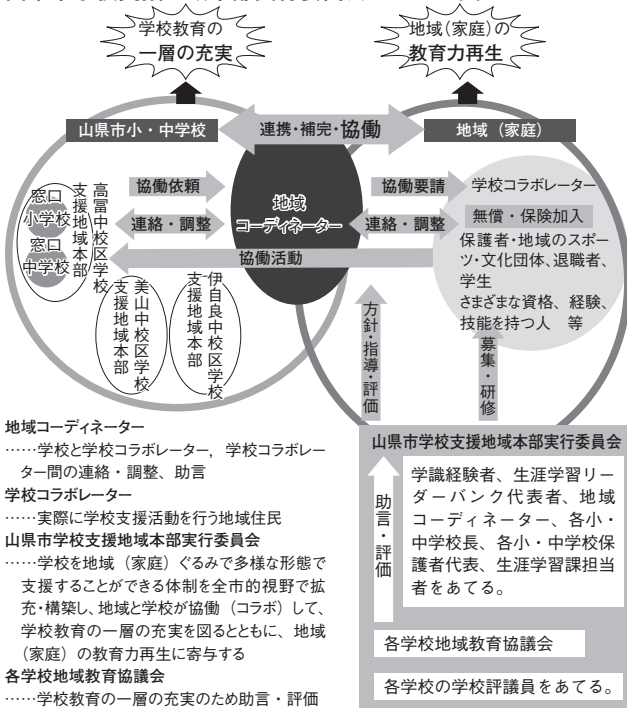
【環境施設メンテナンス型】		【ゲストティーチャー型】	
⑬施設の補修	0	①教科指導	1
⑭植木の剪定	0	②高学年総合的な学習の時間	42
⑮道具の手入れ	0	③伝統芸能指導（選択教科等）	13
⑯HPの作成・更新	0	④クラブ指導	4
⑰パソコンの管理	0	⑤読み聞かせ	37
⑱		⑥	
【環境施設サポート型】		【学習アシスタント型】	
⑲図書室整理	24	⑦行事・低学年総合学習指導	26
⑳花壇の清掃・除草	3	⑧授業における補助	3
㉑掲示物の整理	0	⑨校外活動の引率	2
㉒リサイクル活動補助	0	⑩登下校安全指導	—
㉓生花活動	4	⑪校内預かり指導	2
㉔校地内清掃・除草	3	⑫	

会は、これらのボランティア活動をしている人々すべてに、21年度から「学校コラボ」になってもらえるよう依頼を行って人とは、深い信頼関係を結んでおり、この関係を大切にしながら、新しい仕組みに再編しようとした



「赤ちゃんを抱けたよ」中学生の笑顔

山縣市学校支援地域本部実行委員会イメージ図



地域コーディネーター
……学校と学校コラボレーター、学校コラボレーター間の連絡・調整、助言

学校コラボレーター
……実際に学校支援活動を行う地域住民

山縣市学校支援地域本部実行委員会
……学校を地域（家庭）ぐるみで多様な形態で支援することができる体制を全市的視野で拡充・構築し、地域と学校が協働（コラボ）して、学校教育の一層の充実を図るとともに、地域（家庭）の教育力再生に寄与する

各学校地域教育協議会
……学校教育の一層の充実のため助言・評価

学校コラボの活動は、1日に1つの活動を1件として、4月～7月の1学期間で、市内で164件もありました。また人数は延べ430名になります（部活動の指導や登下校の見守り隊の活動などは、割愛していません）。

学校コラボの活動に多いのは、ゲストティーチャー型の②総合的な学習の時間での専門的内容の知識・技能を活用した内容、⑤読み聞かせの活動内容。また、学習アシスタント型の⑦行事・総合学習

生徒の感想は、「生まれて初めての体験」「生まれた時から、この子のように、自分も可愛がられてきた。実感した」「近い将来、この子たちの親のような親になりたい」などと、口々に話していました。

学習者の生徒の感想や笑顔、さらに抱かれている乳幼児の穏やかな表情を見ると、この学校支援地域本部事業のねらいの確かさが、表れているように思います。

（地域コーディネーター・山縣市社会教育委員 西村覺良）

「実行委員会規約」の中で、事業の目的は、次のとおりとしました。

実行委員会は、学校を地域（家庭）ぐるみで多様な形態で支援することができ、学校と地域（家庭）が協働して学校教育の一層の充実を図るとともに、

事業推進の課題

第3は、「地域教育協議会」は、学校評議員会を母体に、地域コーディネーターを加えて組織することにしました。

第2は、学校コラボの研修です。コラボの皆さんは、自主的に善意をもってボランティア活動を行ってくれるわけですが、校庭に入って児童・生徒に接するわけで、個人情報保護、守秘

活動事例「赤ちゃんを抱けたよ」

学校コラボの活動は、1日に1つの活動を1件として、4月～7月の1学期間で、市内で164件もありました。また人数は延べ430名になります（部活動の指導や登下校の見守り隊の活動などは、割愛していません）。

学校コラボの活動に多いのは、ゲストティーチャー型の②総合的な学習の時間での専門的内容の知識・技能を活用した内容、⑤読み聞かせの活動内容。また、学習アシスタント型の⑦行事・総合学習

地域（家庭）の教育力再生に寄与する。つまり、第1の課題は、今日まで各学校で取り組んできた学校コラボの活動を、「全市的視野で拡充・構築」することです。好ましいコラボの活動をいかに広めるかです。事業内容は市の広報誌に掲載したり、学校コラボ募集や活動の実施写真などを掲載した「会報」を作成したりして、各家庭へ配布しました。

義務や安心安全な活動などを心得てもらいます。そこで、6月には、「学校コラボ登録証」の交付や教育長の講話を含めて、2時間程度研修を行いました。再度、11月にも第2回目の研修を行う予定です。

まだまだ課題山積ですが、1つ1つ解決していく必要があると考えています。

指導としての学校の野菜づくり、環境施設サポート型⑩図書室整理の活動内容も多くあります。

その中の1件。伊自良中学校3年男女36名の家庭科学習（保育領域）。学校コラボは、山縣市子育て支援ネットワーク協議会の子育てサポーターやリーダー。はじめに家庭科担任が本時の学習のねらいを明確にした後に、コラボが、この授業に参加した乳幼児と母親26名を、簡単な手遊びやパネルシアターで打ち解けさせました。次いで、中学生がグループに分かれて母親と乳幼児のもとに接近。おもちゃを使いながら乳幼児の気を引きつつ、漸く写真のように乳幼児を抱きあげました（もちろん、お人形を使って前時に抱き方を練習済み）。